ヤード貸し出し事業を開始

地理的利便性高い立地生かす

●● 松田鋼業(東京) ●●

屋外ストックヤードの貸し出し事業を開始

東京都のHグレードファブ、松田鋼業（本社・練馬区関町南、松田一朗社長）はこのほど、埼玉県内に保有する屋外ストックヤードの貸し出し事業を開始した。賃借企業の納期対応力強化や物流効率化に寄与したい考えで、東京近郊という地理的利便性を生かし、首都圏にヤードを持たない遠隔地ファブや製品置場のスペース不足に困っているファブを中心に貸しヤードサービスを展開する。

貸し出すのは、柏原ヤード（埼玉県狭山市柏原647―10）の3区画と南永井ヤード（同所沢市南永井488―1）の2区画の計5区画。いずれも住宅密集地から離れた好立地にあり、都心から直線距離で30～40㌔圏内、車で40～60分程と都内の工事現場へのアクセスも良好だ。各区画に製品の荷降ろし、荷積みに必要な門型クレーンを完備する。

柏原ヤードは有効面積が3160平方㍍で、3つの区画に分けて貸し出す。第1区画は1580平方㍍の敷地に15㌧（7・5㌧＋7・5㌧）門型クレーン1基を、第2区画と第3区画はそれぞれ790平方㍍の敷地に4・8㌧門型クレーンを1基ずつ備える。敷地内での塗料の使用については刷毛、ローラーの塗装のみ可とする。

南永井ヤードは有効面積が1176平方㍍で、2つの区画に分けて貸し出す。第1区画、第2区画はどちらも588平方㍍の敷地に2・8㌧門型クレーン1基を設置。敷地内ではスプレーガンによる吹き付け塗装も可とする。

鉄構業界では近年、頻発する工期遅れにより予定納期に出荷できない製品が工場内や置場に滞留する傾向にある。繁忙期にはヤードの能力不足から操業に支障が出るケースも見受けられ、鉄骨製作の効率を維持する上でも置場スペースの確保は重要な課題になっているといえよう。

松田社長は「受注物件の工期が重なって置場が不足した際や、都内のプロジェクトを受注して製品の一時保管場所が必要になった際に手助けができればと思い、この事業を始めた。地理的な利便性も高く、賃借企業の納期対応力や物流効率の向上に寄与すると考えられ、必要に応じてお気軽に利用してもらいたい」と話す。

貸しヤードサービスに関する問い合わせは、同社所沢営業所（☎04・2944・2241、FAX04・2944・5732）。